

◆青山桂一 選

日々読んでいます中日新聞の読者文壇の「俳句」佳作コーナーで目についた一句（平成二十七年九月二十日付）。「落し文吾に拾はれさぞ落胆」。ご選者は、長谷川久々子様。作者は愛知県あま市、加藤ひろし様。句ごころを十分お知りで、当方もニンマリと。

◆伊藤洋二 選 ～俳句歳時記より～

出所：合本俳句歳時記第三版 角川書店 平成九年五月三十日初版

【春】

ぼうぼうと燃ゆる目刺を消しとめし 中村汀女

昭和初期の夕餉の支度でしょうか。七輪と金網そして目刺、良き日本の原風景が蘇ります。食べ物が溢れる平成の世で俳句鑑賞が出来る有難さに感謝しております。奥方様の井戸端会議が始まり眼を離したのでしょうか。選者もお腹が減りました。

恋猫のかへる野の星沼の星 橋本多佳子

首尾よく何したクロネコ君は意気揚々と満天の星の輝く道を凱旋。一方最後の詰めが甘かったブチネコ君は沼の辺りをとぼとぼと水面の星もいと悲し。待てば恋路の月夜あり、きっと見上げるその日まで行くが男の生きる道、とエールを送る選者であった。尾を振って流され行くや蝌蚪一つ 星野立子

蝌蚪(くわと)とは、お玉杓子のことでひょろひょろと尾っぽを振る様は滑稽味があり、可愛らしさの代表で絵本の主役です。川の流に身を任せ運は天との一人旅、やがて手足の生えるまでくよくよしては生きられぬ、心配事は上手く行く。

面白や馬刀（まで）の居る穴居らぬ穴 正岡子規

瀬戸内海の燧灘は、石鎚山の麓の遠浅で馬刀貝が採れました。竹の棒を穴に差し引き抜くと貝が竹に抱きついて現れるのです。居そうな穴は何となく生き生

きとしています。狩猟本能を発揮する初舞台です。教えを乞うのは勿論「ガキ大将」。懐かしいです。

藤の房吹かるるほどになりけり 三橋鷹女

「下がり藤」が七分咲です。風がなく垂れ下がっている彼女達は何となく元気がありません。下から覗かれて少々不機嫌です。その刹那一陣の東風が房房を吹き揺らした途端、元の笑顔に戻りました。乳房が躍動するが如き命の輝きです。そして子宝を授かるのです。

【夏】

蝶の舌ゼンマイに似る暑さかな 芥川龍之介

柱時計が手巻式から電池式に変わって幾久しく、ゼンマイを眼にした事が無い。強い発条を巻くには結構力が要る。時に汗ばむ程に。蜜を吸い終えたアゲハが舌をクルクルと巻き飛び去った。野道には山菜採りの難を逃れた薇が彼等のやるべき仕事の段取りをしている。

美しき故不仕合せよき裕 高浜虚子

美人は三日で飽きる、ブ男は三日で慣れるとか云われます？が、好みの世界であり如何ともし難し。美しきが「+」よき裕も「+」と仮定すると反発し仕合せは来ないかもしれないし、超電導で引き合い来るかもしれない。人間は感情の動物、上手にお付き合いの程。

田一枚植ゑて立ち去る柳かな 松尾芭蕉

さすがに俳聖の句は、心からホットします。あれこれと詮索の余地なしです。何処からも切り込めない完全な句です。「柳かな」とは「お百姓さん」とも「にわか雨」ともはたまた「燕」とも解釈されます。足のある柳かもしれません。

◆日根野聖子 選

毎月、当会に諷刺の効いたアートを提供くださっている池田亮二先生。これまでに「戯句酒句」のタイトルで八冊の句集を出版されている。俳号は、「半呆子」。一冊、一冊がいずれも手作りで、折り、糸綴じ、裁断、表紙裏打ち、

糊付け、プレスなど、印刷から製本完成まで全てお一人での作業。全工程約一か月をかけての貴重な句集である。量産することができないので、各句集はいずれも十五部のみの限定本。その貴重な句集から滑稽句をご紹介します。

企業は人というた企業の人減らし
卒業式外は憂き世の嵐なり
里芋がつるつる逃げるわが人生
老いの宴ああ玉杯に発泡酒
入学式みな神童の顔をして
大連休しょうことなしに遊ばされ
良妻賢母時々阿修羅特売所
着たら脱げぬ脱いだら着れぬ晴着かな
狭き門こじあげに行けと受験ママ
ねずみ捕らぬ猫もあるじも草食系
光源氏か斬られの与三か恋の猫
天高し一人遊びの子らばかり
また一つ昭和を消すかビル解体
貧乏をあきらめきれずくじの列

池田亮二先生の絵手紙展が今年も開催されます。新国立競技場やエンブレムの盗作問題、安保法と、今年もいろいろありましたね。ギリシャの金融危機もありました。「同情するなら金くれと誇り高きギリシャ（亮二）」。国内、国外、政治、経済、スポーツ、この一年の出来事を、池田先生の諷刺と笑いの効いたアートで、総括してみませんか。

「池田亮二絵手紙展」

日時：十二月十日（木）～十五日（火）

十時三十分～十七時三十分

会場：大崎ウエストギャラリー

東京都品川区大崎 3-6-7 パークハイツ大崎 3F

☎〇三-三四九〇-四一七七

*会期中無休・入場無料